

魚(アジ)のミイラ を作ってみよう!

熊本市立白川小学校 5年 山本 紗慧



ミイラのナゲト

①はじめに
私は、古代文明が好きです。昨年、私は、日本のミイラについて調べました。実際に何を見に行きましたか? 装飾品は残っていましたが、その人は見当たりませんでした。そして不思議に思っていたところ、熊本城でミイラ展があるとCMで知り、すぐに行きたいと思いましたが、コロナで延期になりました。2回くらいキャンセルして、ようやく行くことができました。自分でもミイラを作ってみようと思いました。



②ミイラとは...

人間や動物の死体を乾かして、もとのままに近い形で残したもの。

ミイラを作った目的とは?
死後に来世で復活して永遠の命を得ると考えられていました。

③ミイラの作り方

1. 死体を洗う
2. 内臓を左から取り出す
3. 内臓を右から取り出す
4. 内臓を乾かす(塩干し)
5. 香油をぬって、包帯を巻く



エジプトのミイラ作りは魚の塩漬けから始まったといわれています。

→魚のミイラを作ってみよう!!



ミイラは古くからお香として使われていました。また殺菌作用があるので、ミイラ作りでよく使われています。ミイラは、ミイラから作られています。



↑ 熊本にのっていた動物のミイラ(ウサギ、ネコ)

1. 方法

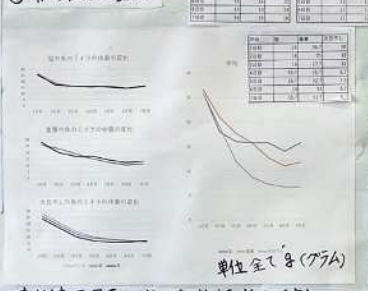
1. 魚(アジ)を9匹用意する。
2. それぞれ天日干し塩漬(重そう)につける。
3. 七日間毎日重そうを量る。
4. 香油をぬって、包帯を巻く。

予想
天日干しが一番体重が軽くなると思う。塩漬が一番見た目がいいと思う。



結果

① 魚の体重の変化



天日干しは魚に下がり、5日目からはあまり変わらなかった。塩漬は魚に下がり、2日目からはあまり変わらなかった。香油は魚に下がり、6日目からはあまり変わらなかった。1本魚が一番へったのは天日干しだった。

2. 毎日の魚のみかけの変化



3. 香油をぬって仕上げたあとの様子



4. まとめと感想

・塩と重そうは、どちらも色をきれいなまま保つことができた。
・塩は体の色がぬけたけれど、重そうでは色があざやかになった。
・天日干しのように、急に水分がぬけてしまうと、きれいな体を保つことができない。
・重そうの袋に脱酸素剤が入っていると、脱酸素剤は色をきれいに保つことができるのだと思った。

・においのり臭さ、水分のぬける速さには関係があると思うので、もっと調べたいと思いました。
感想
はじめてパソコンを使って表を作ったり、写真をまとめた。写真集を毎日編集するのが大変でした。グラフをつくるのはかんたんでした。私がミイラ職人だったら重そうを使いたいと思います。形も色もどちらもきれいに仕上げたいからです。



↑ 香油ぬきの私
↓ 写真集編集中の私